

ドイツ語 (初級 A) / A ドイツ語 第 4 回 冠詞と名詞

範囲: 教科書第 2 課 A (S. 12-13)

《今回の基本例文》

7. Was ist das? – Das ist ein Anzug. Er ist dunkel. (CD11-4)
これは何ですか? – これは背広です。黒の柄です。
[不定冠詞、1 格、指示代名詞 das、物事を受ける人称代名詞、形容詞の述語的用法]
8. Wem gehört die Uhr? – Die Uhr gehört einer Studentin. (CD12-1)
その時計は誰のですか? – その時計はある (女子) 学生のなんですよ。
[定冠詞、3 格、3 格目的語をとる自動詞]
9. Was kauft der Arzt. – Er kauft einen Sportwagen. (CD13-3)
その (男性) 医師は何を買うのですか? – スポーツカーを一台買います。
[4 格]

I 名詞に関する大前提: 性・数・格

補足 「格」の概念について

◇ 英語の人称代名詞には、I (私は/私が)、my (私の)、me (私に、私を) のように、それぞれ日本語の格助詞 (が、の、に、を) に対応するカタチが存在する。ドイツ語の場合、代名詞のみならず、すべての名詞 (やそれを修飾する形容詞) にこのような変化形があり、これを**格**と呼ぶ。格には、**1 格** (主格)、**2 格** (属格)、**3 格** (与格)、**4 格** (対格) の 4 種類があり、取り敢えずは、

名称	日本語の助詞	おおよその用法
1 格	～は / ～が	主語
2 格	～の	所有
3 格	～に	間接目的語 (英語の第 4 文型 (SVOO 構文) における)
4 格	～を	(直接) 目的語

と考えてよい。 (⇒本配付資料 S. 5-6)

* もっとも、前置詞 (⇒教科書第 5 課) や動詞によって目的語の格が決まる場合もあり、上記の定式に当てはまらないことも多い。例えば、helfen (英語の help) は、日本語の感覚では「～を助ける、～を手伝う」であり、4 格を使いそうに思えるが、実際には 3 格を用いる。こういった語法は、辞書を参照しないと判断できない。

◇ ドイツ語では、**4 格を目的語とする動詞のみ他動詞**と呼び、それ以外はすべて**自動詞**と呼ぶ。他動詞の略称は **vt.**、自動詞の略称は **vi.**となる。

* いずれもラテン語から来ている。他動詞は *verbum transitivum*、自動詞は *verbum intransitivum*。

なお、**4 格を目的語とすることを「4 格目的語をとる」、3 格を目的語とすることを「3 格目的語をとる」**などと呼ぶ。

◇ ドイツ語では、一部を除いて名詞それ自体ではなく、名詞にくっつく冠詞、指示代名詞 (*this* や *that* のようなもの)、形容詞が格変化をすると考えてよい (詳しくは後述)。

補足 「性」の概念について

- ◇ ドイツ語の名詞は、**男性、女性、中性**の 3 つの性に分けられる。
- ◇ 辞書や教科書には、
 - ・ 男性名詞は **m.**、女性名詞は **f.**、中性名詞は **n.** と略称で記載される
 - ・ 男性名詞は **der Stuhl**、女性名詞は **die Uhr**、中性名詞は **das Heft** のように、1 格の定冠詞（後述）をつけて記載されるなどのパターンがある。この授業では略称の方を用いる。
 - * *m.* は Maskulinum、*f.* は Femininum、*n.* は Neutrum の略である。
 - ** 本によっては、**男**、**女**、**中** のように日本語で書かれている場合もある。
- ◇ 人間を表す名詞では、生物学上の性と文法上の性が一致するのが普通である（父親 **Vater** は男性名詞、母親 **Mutter** は女性名詞、など）。
 - * ただし、特定の語尾を持つ名詞のなかには、その語尾に引っ張られて生物学上の性と文法上の性が一致しなくなるものもある。例えば、**Mädchen**（少女、*girl*）は、**-chen** がついているため中性。下記「名詞の性別の見分け方」を参照。
 - ・ 人間を表す名詞のうち、職業名には男性形と女性形があり、必ず使い分けなければならない。**Sänger**／**Sängerin**（男性歌手／女性歌手）、**Student**／**Studentin**（男子学生／女子学生）、**Arzt**／**Ärztin**（男性医師／女性医師）など。男性形に語尾-in を加えて女性形をつくるパターンが多い。
 - * **Student** → **Studentin** のように単に-in をつければよい場合と、**Arzt** → **Ärztin** のように母音が変音する場合とがある。下記「名詞の性別の見分け方」も参照。
- ◇ 一方、ほとんどの名詞の性別は、単に慣習的に決まっているにすぎない。名詞の性別を知るには、
 - ・ 辞書を引くのが基本である。一方、
 - ・ 語尾や名詞の種類から規則的に判断できる場合もある（すべてではない）。後者に関しては別紙「**名詞の性別の見分け方**」を用意したので、そちらも参照されたい。
 - * たいへん残念なことに、授業の最初のころに学ぶ基礎的な名詞であればあるほど、語尾で性別が判断できないものが多い。
- ◇ 前に出てきた名詞を人称代名詞で示すとき、男性名詞は男性の人称代名詞（1 格では **er**）を、女性名詞は女性の人称代名詞（1 格では **sie**）を、中性名詞は中性の人称代名詞（1 格では **es**）を用いる。つまり、人間ではないモノであっても男性名詞や女性名詞なら **er** や **sie** で受ける。
 - * もちろん英語の *he* や *she* は基本的には人間しか指さないで、それとはだいぶ異なる。

補足 「数」（単数形と複数形）の概念について

- ◇ 英語と同じく、ドイツ語の名詞にも**単数形**と**複数形**が存在する。ただし、例外を除けば単数形に **s** をつければ複数形がつけられる英語と異なり、ドイツ語での複数形のつくり方は数パターンがある。ただし、これについて今回は詳しくは扱わず、教科書第 3 課であらためて学習する。
- ◇ 単数の略称は **sg.**、複数の略称は **pl.**。
 - * それぞれ Singular、Plural の略。

II 冠詞と名詞の格変化

A. 冠詞と名詞 (S. 12)

1 定冠詞と名詞の格変化 (S. 12)

◇ ドイツ語の名詞は、いま説明した格（1 格、2 格、3 格、4 格）に応じてかたちを変える。つまり、**格変化**する。ただし、一部を除いて名詞自体が格変化することはなく、基本的に名詞につく冠詞が変化する。冠詞は、英語と同じく、定冠詞（*the* に相当）と不定冠詞（*a* や *an* に相当）の 2 種類がある。

* 無冠詞の場合でも潜在的にはすべての名詞はいずれかの格に属しており、例えば第 1 課で扱った *Ich lerne Deutsch.* の *Deutsch* は 4 格である。

** ドイツ語以外の言語では、名詞そのものが格変化するものもある。

◇ 格変化は、やはりいま説明した性・数（男性、女性、中性、複数）ごとに決まっている。

* 複数では男性、女性、中性の区別はなくなり、すべて「複数」として一くりに扱われる。

◇ よって、ドイツ語の名詞の格変化としては、

**4（男性、女性、中性、複数） × 4（1 格、2 格、3 格、4 格）
のマトリックスを
2 種類（定冠詞、不定冠詞）**

覚えてもらうことになる。

◇ 基本となるのは**定冠詞の格変化**である。これは、

- **der, des, dem, den**（男性）
- **die, der, der, die**（女性）
- **das, des, dem, das**（中性）
- **die, der, den, die**（複数）

を順番に唱えて覚えるのが恒例となっている（逆に言えば、これは丸暗記するしかない）。

* *der* の発音に注意。この *er* は人称代名詞の *er* や *lernen* などと同じく、[ea]と読む。

◇ 前述の通り、「一部を除いて」名詞自体が格変化することはないが、男性 2 格、中性 2 格、複数 3 格だけは名詞自体にも語尾がつくので注意。

- 男性 2 格、中性 2 格：名詞自体に -s もしくは -es をつける。

* どちらをつけてもよい場合がほとんどだが、-s でなければならない場合や -es でなければならない場合もある。いまはあまり気にする必要はない。

** 英語で 's をつけて所有を表すことの延長であると考えればよい。ただし、ドイツ語ではアポストロフは不要。

- 複数 3 格：名詞自体に -n をつける。

◇ 定冠詞の格変化をまとめると以下の通り。

	男性	女性	中性	複数
1 格	der –	die –	das –	die –
2 格	des –[e]s	der –	des –[e]s	der –
3 格	dem –	der –	dem –	den –n
4 格	den –	die –	das –	die –

2 不定冠詞と名詞の格変化 (S. 12)

◇ 一方、不定冠詞の格変化は、定冠詞の格変化のヴァリエーションとってよい。定冠詞の格変化表から語尾を抜き出すと、

	男性	女性	中性
1 格	-er	-e	-as
2 格	-es	-er	-es
3 格	-em	-er	-em
4 格	-en	-e	-as

となる。

- * 英語と同じく、ドイツ語にも複数の不定冠詞は存在しない。
- ** 女性 1 格および女性 4 格については、-ie ではなく -e を抜き出すこと。

不定冠詞では

- ・この - の部分に **ein** を加えるのが基本。
- ・ただし、**男性 1 格、中性 1 格、中性 4 格は無語尾**になる。
- * つまり、不定冠詞の格変化は定冠詞の格変化からアレンジできるので、こちらは丸暗記する必要はない。

◇ 名詞自体には、やはり**男性 2 格と中性 2 格に -s、複数 3 格に -n**の語尾がつく。

◇ 不定冠詞の変化表をまとめると以下の通り（無語尾のところには○を付した）。

	男性	女性	中性	複数
1 格	ein○ -	eine -	ein○ --	-
2 格	eines -[e]s	einer -	eines -[e]s	-
3 格	einem -	einer -	einem -	-n
4 格	einen -	eine -	ein○ -	-

- * 複数に関しては、便宜的に無冠詞のものを加えた。
- ** einer における er の発音は、der の er と異なり、[a:]の音となることに注意。

練習問題の補足

Übung 3 (S. 13)

1～5. 疑問詞の wer は格変化する（教科書右図の変化表を参照）。wer（1 格）、wem（3 格）のほか、

Wessen Uhr ist das? それは誰の時計ですか？

(2 格) (1 格)

Wen liebt er? 彼は誰を愛しているのですか？

(4 格) (1 格)

	wer の格変化	英語	意味	備考
1 格	wer	<i>who</i>	誰が	
2 格	wessen	<i>whose</i>	誰の	一般の 2 格と異なり前置修飾する
3 格	wem	<i>whom</i>	誰に	
4 格	wen		誰を	

1～5. 3 格目的語をとる自動詞 gehören については、本配付資料 S. 6 を参照。

III 格の基本的な用法

補足 1 格から 4 格までの基本的な用法

◇ 1 格は、主語 (～は、～が) か述語内容語 (「何々である」というときの何々) となる。

* 述語内容語が英語の補語にあたることはすでに述べた。この機会に復習しておく、

I am a student.

というときの *a student* が補語であり、英文法ではこうした構文を SVC (主語-動詞-補語) の第 2 文型としている。要するに、英語の *be* 動詞やドイツ語の *sein* に代表される「である」を表す自動詞で主語と結ばれるのが補語/述語内容語である。一方、

I read a book.

における *a book* は目的語で、こちらは SVO (主語-動詞-目的語) 構文=第 3 文型となる。つまり、一般の他動詞の動作の対象となるものが目的語である。ドイツ語では述語内容語は 1 格、目的語は 4 格なので、混同してはいけない。

その際、英語同様、述語内容語をとることができる動詞 (「である」に類する自動詞) は限定されていることに注意。現時点では **sein**、**werden**、**heißen** が登場している。

Ich bin Student.

(1 格) (1 格)

私は学生である。

Das ist ein Tisch.

(1 格) (1 格)

それは机である。

* 一般に職業や身分などを表す名詞が述語内容語となる場合、無冠詞となる。 (⇒教科書 S. 11)

◇ 2 格は、所有 (～の) を表し、基本的には後置修飾となる。

* 英語の *of* ～ であると考えればよい。

Das ist das Buch des Lehrers.

(1 格) (1 格) (2 格)

それは教師の本である。

◇ 4 格は、目的語 (～を) を表す。

* 説明の便宜上、3 格よりも 4 格を先に解説している。

Ich lese das Buch.

(1 格) (4 格)

私はその本を読む。

◇ **3 格**は、

- ・基本的には、英語の第 4 文型（SVOO）に類する文における**間接目的語**（～に）を表す。

* もちろん、その場合、直接目的語（～を）には 4 格を用いる。

Ich gebe einem Freund das Buch.

(1 格) (3 格) (4 格)

私はある友人にその本を与える。

* geben は「与える」、英語の give に相当する動詞。give も周知の通り間接目的語（～に）と直接目的語（～を）をとる。

- ・一方、**3 格目的語だけをとる特殊な動詞**があり、それらはもちろん 3 格とともに使用する。例としては、**helfen**（〈3 格〉を助ける、手伝う）、**gehören**（〈3 格〉に属する、〈3 格〉のものである）など。

* helfen は help、gehören は belong to と考えてよい。

** 繰り返すと、helfen に関しては、「～を助ける」という日本語的な語感からすれば、4 格をとると考えても不思議ではない（英語の help は普通の他動詞でもある）。だが、実際には 3 格目的語をとる「自」動詞である。こうした語法は、いちいち辞書を参照しないと判断できない。

Wir helfen dem Professor.

(1 格) (3 格)

私たちはその教授を手伝っている。

Die Uhr gehört einer Studentin.

(1 格) (3 格)

その時計はある女子学生のものである。

なお、こうした 3 格目的語だけをとる動詞は、自動詞に分類される。

	分類	例
他動詞	4 格目的語をとるもの (加えて 3 格目的語もとるもの)	lernen (〈4 格〉を習う)、lieben (〈4 格〉を愛する) geben (〈3 格〉に 〈4 格〉を与える)
	単独で使用するもの (方向や目的地をとともなうもの)	liegen (ある、横たわる)、wohnen (住む) gehen (～に行く)、fahren (～に乗物で行く)
自動詞	述語内容語をとるもの	sein (〈1 格〉である)、werden (〈1 格〉になる)
	3 格目的語のみをとるもの	helfen (〈3 格〉を助ける)、 gehören (〈3 格〉に属する)

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>